

・復活主日

泉のほとり

今月の詩編「第四十一編」

いかに幸いなことでしよう

弱いものに思いやりのある人は、

災いのふりかかるとき

主はその人を逃れさせてくださいます。



誘惑に陥らぬよう

この地上は天の国ではない。神の国とはあまりにも遠く、人も初めに造られた姿とはあまりにも遠いものです。人は皆、罪の中で生き、自己中心性を自らの本質として貪りに生きるものになりました。そのため人に妬み、憎み、裏切れることも蔓延し、また人の語る唇からの言葉にはなんと偽りが多いことか、なんと空しい言葉、へつらう言葉の多いことか。常にその言動には裏と表があり、内側と外側が違うのです。人の偽善、人に仕えること、へりくだることと知らない人の高ぶり、空の鳥、野の花を見ていても、神さまのご支配を見ることができない不信仰に生きる者となつてしまいました。二十三年間とも言われているキリストのこの地上での生涯は、「塵に過ぎないお前は塵に帰れ」と言われ、ノアの時代に人をこの地上から水で拭い去つた神のお怒りを、ご自分の身をもって確かめられたものだったと思います。それゆえに「裁きの日にはソドムとゴモラのほうが耐えやすい」とも言われたことがあります。

しかし、神の激しいお怒りの杯が人々の上にあること、その恐れおののくべき人の現実、深刻さを知る者は誰、人いませんでした。

主は「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください」と、苦しみもだえてお願いしておられました。その時、汗が血のしずくのように地面に落ちていたのです。キリストだけが苦しみをだえていました。誰一人、恐れおののき、苦しみをだえている主の御心を知らないのです。「御心のままに行ってください。あなたの御心が、わたしの身に行われますように」と祈られました。父はその杯を取りのけてくださいませんでした。神の御心を確かめられた主は立ち上がったのです。従うために。

ところが、弟子たちの所へ戻ってこられると、彼らは眠っていました。主イエスは「なぜ、眠っているのか、誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」と言われたのです。本来、目を覚まして、苦しみをだえ、血の滴るように汗が地に落ちるほど祈るべきなのは弟子たちのほうです。そして我々です。ところが、杯を受けるべき人たちは眠っていたのでした。そこから、自分が受けるべき杯にすら気づかない心の鈍い人の現状が見えるのです。

キリストは恐れおののき、苦しみをだえて祈られていました。そのキリストの御心の百万分の一も知らないにしても、我々の罪に対し恐れおののきつつ、杯を真正面に受けてくださった方を前にして、我々はそれぞれ自分の罪に對し「決して」眠っていてはならないと思います。そして今現在も自分の中にある罪、貪り、偽り、偽善、不信仰などにまっすぐに取り組むことが、主がなされた御業に對する私たちの最低限の誠実さと思うのです。

主は「わたしが杯を飲むから、あなた方は大丈夫。眠っていていいよ」とは言われませんでした。「目を覚ましていなさい」と今もお語りになっています。天の父は御子が受ける杯を取りのけてくださいませんでした。御子に十字架を背負わせられました。我々の罪のためです。その御心が「誘惑に陥らぬよう、目を覚ましていなさい」というキリストの一言に集約されているのです。

神さま、主キリストがこれほどまでの熱しきみで、我々の問題への真実を示されたのであるなら、私たちこそ、自分の罪から目をそらさず、それぞれの罪の問題を連れて通ろうとせず、一層目を覚まして、神の憎むものを我々も憎み、十字架に表された主に似た者になることを慕い求めて生きることが、人としてなすべき当然のことと思うのです。

復活

・・・福音を通して命と不死とを明らかにされました・・・。

テ モテハ紙の手 一章一〇節

あなたは光の中へ復活されました。
それによりわたしたちも

闇の中に居続けることなく

光の中へと復活するのです。

あなたに続いて。

あなたは讃美の中へと復活されました。

天使たち、大天使たちの讃美の中へ。

そしてわたしたちの讃美の中へも。

あなたは眠ることなく、

まどろむこともなさいません。

わたしたちが眠ることがないために。

わたしたちを、あなたの命の中へと

目覚めさせてください。

わたしたちを照らしてください。

わたしたちが目を覚まして

あなたが讃えてくださることに

気づくことができるように。

キリスト者の心の中で、キリストの十字架が悲願や肉に対して、また罪や神無き者たちに対して勝ち誇るのには、彼らの眼が復活の方に向けられる、その時に至ってである。

カルヴァン

R・ボーレン著 「祈る」より

楠原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○今日はイースターです。礼拝の中で洗礼式を行います。

受洗者

菅 沼由佳子教員倉岡劉子

○礼拝後、教会学校の子どもたちのためのイースターランドを園庭で行います。

○礼拝後、ロビーではコーヒーマーササービスがあります。園舎二階のリズム室では、ぶどうの会が開かれて、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○二時からホールで、イースターの祝会を行います。受洗者を歓迎し、お祝いの食事を共にします。今日のメニューは、白身魚の香味ソース、ミモザサラダ、桜エビごはん、お澄まし、フルーツヨーグルトです。

○食事後のお片付けの後、今年度最初の役員会をカナルルームで行います。

○来週は、四月の教会総会です。昨年度の活動報告を聞き、各会計の決算を承認します。資料が状差しに配られていますので、教員は資料に目を通して、総会にご出席ください。

○来週も朝一〇時からの一回礼拝です。礼拝の中で新しい役員の任職式を行います。

○明日午後一時から五時まで、東京説教塾の例会がホールで行われます。なお引き続き、午後六時から加藤常昭先生の卒考を祝う会を行います。

○二三日(火) 午後五時半から、日本キリスト合同教会委員会が桜台教会で行われます。

○二六日(金) 朝一〇時半からシオンの会を行います。雪ノ下カテキズムの間(四〇三〇)を学びます。新しい方の参加を歓迎します。

○コイノニアキャンプで着用するボロシャツの申込みは本日までです。本日に事務所にお申込みください。

公 告

二〇一九年四月二十一日
キリスト品川教会牧師 吉村 和雄

記

日 時 二〇一九年四月二十八日(日) 正午

場 所 グロリア・チャペル・ホール

議 事

1. 2018年度教勢行事報告承認に関する件
2. 2018年度諸会計補正予算ならびに決算報告、財産目録承認に関する件
3. 2018年度諸報告承認に関する件

イースター おめでとうございます

キリスト品川教会の皆さま
復活の主の御名を讃美致します。暖かな春の訪れを嬉しく思います。イースターの喜びの時、御子が死からよみがえり、死に打ち勝つてくださったことを讃美致します。

二〇二二年も二〇一三年の二年間、キリスト品川教会で神学生として過ごすことが赦され、毎週の主日礼拝と聖書の学び会、その他諸集会において大変お世話になりました。二〇一四年四月より小金井市の母教会での伝道、牧会に励んでいます。二〇一七年に按手礼を授けられ、主任牧師として新たにしております。キリスト品川教会での経験より、当教会においても毎年「パークリスマスバザー」を行うようになりました。昨年で四回目となりました。近隣の方の中で毎年来られる方もあり、教会を知ってもらう伝道の機会として地域に定着しつつあることを嬉しく思います。

毎主日の礼拝奉仕以外に、結婚式や祭儀などの司式を執り行う経験もさせて頂きながら、その度に御言葉に聞き、主の恵みの確かさ、御言葉の力強さに励まされ歩むことができています。当教会において、今年のレントでは七つの悔い改めの詩編から御言葉を聞きました。その際、吉村先生が訳された「詩編を祈る」に

記されていたように、私達には嘆くような祈りがゆるぎされており、神さまは直接的な言葉で祈ることを求めておられることの大切さを学びました。

新しい年度も、慈しみ深い神さまに身を委ねて祈り、霊に導かれて進進していきたくと思います。家族も元気にしています。

日本アライアンス教団 東京キリスト教会

吉村 和雄

聖書の会

4月24日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「兄弟を得るために」

マタイ18章15節〜20節

吉村和雄牧師

●聖書の夕べ(19時)

「全地に満ちる御名」

詩篇 第8篇

吉村和雄牧師

次週礼拝

●一回礼拝(午前10時)

讃美歌 讃2-1189番 148番

説教「ああ、愚かな者たち」

聖書 ルカ24章13〜27節

説教者 黄允湜副牧師





イースター礼拝 (午前10時)

讃美歌 II 131番

151番

説教 「必ず復活すると」

聖書 ルカ24章1～12節(新約 P159)

司式/聖餐司式 菊池 美穂子 副牧師

説教者 古村和雄 牧師

前奏曲 「あがめよ、讃えよ、父なる神」 E.グロト

○ II 131番

- いざうたえ たからかによろこびのほめうたを
あたらしき代を告ぐる 主のよみがえりを
死のちからうちやぶり とこしえに勝ちたもう
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを
- いざうたえ たからかによろこびのほめうたを
死の刺をくだきたる 主のよみがえりを
かぎりなきいのちをば たからかに告げしめせ
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを

アーメン

○ 教会学校生徒による讃美

「きけ、イースターのうたを」

○ ソプラノによる讃美

「モテット」より〜アレルヤ W.A.モーツ

○ 聖歌隊による讃美

「ハレルヤ」

ハレルヤ ハレルヤ 全能の神 続べたもう

ハレルヤ ハレルヤ 全能の神 続べたもう

ハレルヤ ハレルヤ

世の國ぐに全て 神とキリストの國となれり

主はとわに 続べたもう

主の主 とわに ハレルヤ

主の主に とわに ハレルヤ

主の主 ときわに主は 続べたもう

主の主 主の主に ときわに主は 続べたもう

主の主 主の主に ハレルヤ ハレルヤ

○ 151番

1. よろずの民 よろこべや

主イエス陰府にかちませば

死のちから はや失せはて

ひとのいのち かぎりなし

2. 主はさかえの 御座にまし

みつかいたち 妙にうとう

「主イエス死にかちかまえば

人はとわに生くべし」と

3. 明日を待たぬ いのちもて

なやみたえぬ 世に住めば

たえがたく かなしかるを

今は死なぬ 身となりぬ

4. なみだの谷 甞はれて

み國のみち のどかなり

いざうたえ しらべたかく

主のみさかえ 世のさちを

アーメン

聖餐曲 「永遠の至福」 O. マン

後奏曲 「トッカータ」 T. デニョフ